

中間評価シート

中間評価（表紙）

鹿島市 歴史的風致維持向上計画（平成31年3月26日認定） 中間評価（平成31年度～令和5年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保全・活用	3
II 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承	4
III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全と形成	5
IV 歴史文化の認知に係る体験機会の創出	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 伝統的建造物等の保存・活用に促進	7
ii 観光振興及び情報発信	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A重要伝統的建造物群保存地区修理事業	9
B祐徳門前地区街なみ環境整備事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1肥前浜宿に息づく人々の営みにみる歴史的風致	11
2祐徳稲荷神社参拝と地域の営みにみる歴史的風致	12
3鹿島城址と琴路神社の祭りにみる歴史的風致	13
4浮立と獅子舞にみる歴史的風致	14
■ 庁内体制シート（様式6）	15
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	16
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	17

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	肥前浜宿に息づく人々の営みにみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	
2	祐徳稲荷神社参拝と地域の営みにみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	
3	鹿島城址と琴路神社の祭りにみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	
4	浮立と獅子舞にみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物の保全・活用		
Ⅱ	歴史や伝統を反映した人々の活動の継承		
Ⅲ	歴史的建造物を取り巻く環境の保全と形成		
Ⅳ	歴史文化の認知に係る体験機会の創出		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	伝統的建造物等の保存・活用の促進		
ii	観光列車、観光への波及		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	重要伝統的建造物群保存地区修理事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	祐徳門前地区街なみ環境整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
方針	I 歴史的建造物の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】重伝建地区内では、伝統的建造物群保存地区制度などの支援制度の活用による、歴史的建造物の保存・活用が推進されてきた。一方、重伝建地区外では、支援制度が少ないこともあり、歴史的建造物の老朽化や空き家の増加、管理の不十分な建造物などが見られ、これらの建造物への対応などが課題となっている。

【方針】今後は、重伝建地区外を含め、歴史的建造物の保存と活用に関する対策を強化し、多くの歴史的建造物を将来にわたって守り、活かしていくことを目指す。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要伝統的建造物群保存地区修理事業	伝統的建造物保存修理(27件)	あり	H19～R10
2	市所有歴史的建造物維持管理事業	継場来訪者利用者(計64,000人)	あり	H30～R10
3	空き町家活用促進事業	歴史的建造物へ移住、店舗活用	あり	H27～R10
4	歴史的建造物保存対策事業	佐賀県遺産修理実績(3件)	あり	H31～R10
5	移住受入体制整備事業	移住体験施設利用実績(計18組)	あり	H31～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【重要伝統的建造物群保存地区修理事業】
・文化庁及び佐賀県文化課による技術指導のもと、伝統的建造物の保存修理や塀の修景などの適切な修理修景がなされ保存が促進された。

【市所有歴史的建造物維持管理事業】
・地元NPO法人へ管理委託及び指定管理委託し、観光案内所運営や一般公開を行った。

【空き町家活用促進事業】
・市内を対象に建物の空家実態調査を実施した。
・市外から空き家となっている歴史的建造物へ移住、店舗として活用実績があった。

【歴史的建造物保存対策事業】
・歴史的風致形成建造物への指定物件は無かったものの佐賀県遺産に登録された建造物の保存修理を実施した。

【移住受入体制整備事業】
・移住体験施設として整備した、旧筒井家住宅の維持管理や利用者へのサポートを行うため維持管理体制を整えている。

佐賀県遺産に認定された「永溪山泰智寺」

移住体験施設利用者

④ 自己評価

伝統的建造物の保存修理や修景や佐賀県遺産への登録により、適切な保存活動が促進されており、町並みを見学にくる来訪者も増加している。
一方、修理を行ったあとの空き家活用や移住に繋げる取り組みなど、今後の利活用について検討が必要である。

⑤ 今後の対応

引き続き伝統的建造物の保存修理を行いながら、重伝建地区外の歴史的建造物の保存と活用に関する対策として歴史的風致形成建造物への指定物件、佐賀県遺産への登録を促し、重要歴史的建造物の保存・維持管理事業を実施する。
また、空家実態調査結果も参考にしながら、今後も空き家バンク制度や街なみ環境整備事業と連携を図りながら事業を進めていく。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
方針	Ⅱ 歴史や伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史や伝統を反映した人々の活動については、後継者不足により技術の伝承が困難なこと、道具の更新が負担となることなどから、継承していくことが困難な状況になっている。

【方針】今後は、歴史や伝統を反映した活動を継承する人々と連携し、活動の発信機会の創出や継承に求められる施策を講じるなど、積極的に活動の継承を支えていくことを目指す。具体的には、民俗芸能の後継者や保存団体等と連携し、市内外への情報発信や後継者育成を図る。芸能で使用する道具が老朽化している場合には、必要に応じて学識経験者の指導を受け、伝統的な意匠や技術に即した修理や新調に対する支援策の充実を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝承芸能の公開支援事業	かしま伝承芸能フェスティバル等開催	あり	H9～R10
2	祐徳稲荷神社と肥前浜宿の参拝継承事業	鹿島酒蔵ツーリズム開催	あり	R2～R10
3	浜川流域の活動支援事業	地元が行う維持管理への支援	あり	R2～R10
4	民俗芸能の道具等の修理・新調支援事業	毎年道具の新調、修理への支援	あり	R2～R10
5	民俗芸能団体の活動支援事業	保存継承活動への支援	あり	R2～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【伝承芸能の公開支援事業】

- 令和4年に3年ぶりとなる「かしま伝承芸能フェスティバル」、「第5回佐賀県伝承芸能祭」が開催され県内外に伝承芸能の魅力を発信した。

【祐徳稲荷神社と肥前浜宿の参拝継承事業】

- 「鹿島酒蔵ツーリズム@イベント」にてシャトルバスを運行し、歴史的風致を形成する門前町と浜宿を繋ぐ活動を行った。

【浜川流域の活動支援事業】

- 浜川流域の水路の清掃など維持管理に取り組む地元の活動に対し、重機使用料、原材料の支給などにより支援を行った。

【民俗芸能の道具等の修理・新調支援事業】

- 助成事業、補助事業を活用し、県重要無形民俗文化財「音成の面浮立」の用具や袴、祭用裃など用具新調の支援を行った。

【民俗芸能団体の活動支援事業】

- 市重要文化財である浅浦の面浮立の保存会に対し、活動費の補助を行い、支援や助言を行った。

④ 自己評価

民俗芸能の道具の修理や新調、民俗芸能団体への活動支援を行い、かしま伝承芸能フェスティバルの開催など、歴史や伝統の継承に向けて活動を行った。

新型コロナウイルスにより各地域の伝承芸能やイベントができない期間があったが開催できるようになり、イベントによる周知が引き続き必要である。

⑤ 今後の対応

民俗芸能団体や道具修理などの活動へ支援を行い、活動の継承を支えていく。

また、「かしま伝承芸能フェスティバル」や「佐賀県伝承芸能祭」にて歴史や伝統を反映した人々の活動について情報発信を行い、後継者不足という課題解決に向けた事業を行う。



かしま伝承芸能フェスティバル

琴路神社の神幸祭行事
(神輿新調)

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
方針	Ⅲ 歴史的建造物を取り巻く環境の保全と形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】
歴史的建造物を取り巻く環境については、空き地や道路付帯施設等が景観を阻害する要素となっており、歴史的建造物を取り巻く環境整備や景観保全の取組みが十分でない。

【方針】
今後は、歴史的風致と調和した景観誘導を施策的に行うことで、歴史的建造物を取り巻く環境整備と景観保全の一体的な推進を目指す。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	肥前浜宿街なみ環境整備事業	駅前整備及び道路美装化等	あり	H15～R10
2	祐徳門前地区街なみ環境整備事業	修景事業実施(3件)	あり	H29～R10
3	景観形成推進事業	景観行政団体へ移行	あり	H29～R10
4	文化財防災事業	文化財防火デーに合わせた訓練実施	あり	H29～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【肥前浜宿街なみ環境整備事業】
・肥前浜宿の歴史的建造物を取り巻く周囲の環境をより良好なものにするために、道路美装化、建築物の修景等を行った。

【祐徳門前地区街なみ環境整備事業】
・祐徳門前町の参道あるいは地区全体としての個性と統一感のある町並み景観形成を図るため、建築物の修景に対する補助等を行った。

【景観形成推進事業】
・令和元年度に景観行政団体に移行（令和2年1月22日告示 処理開始日 2月21日）している。

【文化財防災事業】
・重要伝統的建造物群保存地区内の消防設備について、市職員による毎月点検及び専門業者に総合点検を実施した。また、文化財防火デー防火訓練を実施している。

庄金地区の道路美装化

祐徳門前商店街修景

文化財防火デーの訓練の様子

④ 自己評価

街なみ環境整備事業などにより、道路の美装化など歴史的建造物を取り巻く環境をより良好なものとするために、ハード面の整備を進めている。

防災事業については新型コロナウイルスの影響などによって地元住民と行う防災訓練ができていないため、防災意識向上のためにも防災訓練の実施が必要である。

⑤ 今後の対応

地元と協議を行いながら街なみ環境整備事業を今後も進めていく。

令和元年度に景観行政団体へ移行し、今後は鹿島市全体の景観について、検討していく必要がある。景観計画は、本来の景観を維持しつつ、現代的な生活環境とも調和した地域づくりを実現することができる。また災害対策としての文化財防災事業の中で点検や防火訓練はだけでなく、地域住民の防災意識の向上を図る活動も取り入れていきたい。これらを通じて、歴史的建造物とその周囲環境の長期的な保全と活用を進めていく。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
方針	Ⅳ歴史文化に認知に係る体験機会の創出	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市を訪れる観光客が増加傾向にあるものの、情報発信が不十分であったり、回遊性が効果的に図られていなかったりなど、本市の魅力が十分に活かされていないことが懸念される。また、歴史や文化にふれる機会が不十分であることから、本市に受け継がれる歴史や文化への関心が低下していることも危惧される。

【方針】今後は、市内外に向けて、歴史や文化を積極的に発信していくことで、市民や来訪者の関心の醸成につなげていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	祐徳門前と肥前浜宿をつなぐ散策者用誘導サイン設置事業	歩行者動線の整備	あり	R2-R10
2	歴史的風致の解説板設置事業	案内看板の更新(5件)	あり	R3-R6
3	肥前浜宿・祐徳門前町まちづくり交流促進事業	歴史的景観審議会での報告	あり	R2-R10
4	歴史まちづくり普及事業	パンフレットの配布、住民説明会	あり	H31-R4
5	歴史ガイドブック作成事業	歴史さんぽシリーズの作成	あり	H31-R10
6	子ども向け歴史まちづくり普及事業	能古見小3年生対象講義実施	あり	H31-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【祐徳門前と肥前浜宿をつなぐ散策者用誘導サイン設置事業】
・肥前浜宿と祐徳稲荷門前をつなぐ歩行者導線の整備（サイン及び舗装）を行った。

【歴史的風致の解説板設置事業】
・来訪者が散策等を行う際に、周辺の歴史的風致の認知ができるよう、解説板を設置した。

【歴史まちづくり普及事業】
・祐徳稲荷神社、門前町案内パンフレットの配布。鹿島高等学校生徒約20名も参加し、市内小学生約70名が競技かるた方式での大会運営補助を行った。

【歴史ガイドブック作成事業】
・歴史や文化財を個別に紹介する「歴史さんぽシリーズ」は市内6地区分がすべて完成し、郷土学習や歴史講座、ウォーキング事業などで活用している。

【子ども向け歴史まちづくり普及事業】
・能古見小学校の3年生を対象に「のごみ お宝再発見プロジェクト」と題した講座を開催、校区内の文化財を案内した。

④ 自己評価

観光客や地域住民が歴史と文化に触れる機会を増やすため、案内パンフレットや歴史ガイドブックの作成、散策路の整備、解説板の設置などに取り組んできた。

また、地元学生への教育活動を通じて、次世代にも歴史や文化の価値を伝えてきた。これらの事業は、本市の魅力を発信し、観光客からの訪問や地域住民の市への愛着を高めることに一定の成果を達成したと評価している。

⑤ 今後の対応

今後の取組みとしては、散策路の景観形成や利便性向上のための検討を行い、市の魅力をさらに引き立てる取組みを進めていく必要がある。さらに、市民や訪問者が直接、歴史や文化に触れられるような取組みを検討し、市の魅力を広く伝えることに努める。これらの取組みを通じて、市の歴史と文化の認知度向上と観光拠点としての魅力を高めることを目指す。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
効果	i 伝統的建造物等の保存・活用の促進		
① 効果の概要 伝統的建造物の保存・活用による地域の活性化			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	鹿島市第七次総合計画	あり	R3～R7
2	鹿島市都市計画マスタープラン	あり	H28～
3	伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	H18～
③ 効果発現の経緯と成果			
●選定の経緯 地元や有識者の間で肥前浜宿の町並みを保存に対する機運が高まり、鹿島市として本格的な調査（伝統的建造物群保存対策調査）を行うことになった。その調査結果により学術的な価値が明らかとなり、平成18年に浜庄津町浜金屋町、浜中町八本木宿の2地区が伝統的建造物群保存地区に選定された。			
●修理・修景実績 H31～R5の5年間で27件の修理・修景がなされ歴まち計画策定後も保存活用に向けた取り組みが積極的に行われている 修理・修景実績（計 27件） H31年度(5件)、R2年度(3件)、R3年度(8件)、修景（1件）、R4年度(6件)、R5年度(4件)			
●活用の動き 修理された物件の一部は飲食店や移住体験施設、宿泊施設などに活用され、観光の促進、鹿島への移住促進に寄与している。			
●地元団体の取り組み 伝建選定の取り組みについて地元で声を挙げた人を中心に「肥前浜宿水とまちなみの会」が結成され、現在は肥前浜駅での観光案内業務や肥前浜宿の町並みガイドなど肥前浜宿の町並み保存活動を通して持続可能な地域社会の実現に貢献している。			
 修理前 修理後 修理前 修理後(飲食店)			
④ 自己評価 修理事業において学識者や文化庁及び佐賀県文化課による技術指導のもと、鹿島市は間接補助事業者として事業者である民間所有者及び民間設計士への適切な助言・指導を行うことにより、継続的に伝統的建造物の適切な修理がなされ保存地区の街並みの保存が促進された。また少しずつ店舗がオープンするなど活用の促進に繋がっている。			
⑤ 今後の対応 引き続き伝統的建造物の保存修理を行いながら、重伝建地区外の歴史的建造物の保存と活用に関する対策として歴史的風致形成建造物への指定物件、佐賀県遺産への登録を促し、重要歴史的建造物の保存・維持管理事業を実施する。 また、空家実態調査結果も参考にしながら、今後も空き家バンク制度や街なみ環境整備事業と連携を図りながら事業を進めていく。			

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
効果	ii 観光列車、観光への波及		
① 効果の概要 観光列車の運行本数増加			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	鹿島市第七次総合計画	あり	R3～R7
2	鹿島市都市計画マスタープラン	あり	H28～
3	肥前浜宿街なみ環境整備事業	あり	H15～R10
③ 効果発現の経緯と成果			
●観光列車が停まるようになったきっかけ 駅のホームで行った地元住民、観光協会、地元団体による「おもてなし」により観光列車が停まるようになる。この取り組みを後押しする動きがH28年から生まれた。			
●肥前浜駅周辺の整備の経緯			
H28年度	佐賀県から、長崎本線の並行在来線駅の活性化事業打診があり、「肥前浜駅デザイン研究」にて駅舎及び駅周辺の基本計画実施（鹿島市と佐賀大学との共同研究）。		
H29年度	肥前浜駅駅舎改修をきっかけに観光列車の停車が増加、おもてなしや朝市など駅前でのイベント活用が行われた。		
H30年度～R3年度	駅前広場の整備（街なみ環境整備事業）が行われ、駅周辺の歴史的背景を大事にした景観に配慮された駅前空間となった。		
R2年度	HAMABARがオープンし、ホーム直結の日本酒を味わうことができる店舗として活用されている。		
●駅周辺整備と地元の相乗効果			
観光列車が停まるとホームに地元住民が集まり、出店やお酒の販売などの歓迎行事を行い乗客と地元の交流が生まれた。			
これまでは週1回の観光列車の停車であったがR4.9からは新たに観光列車のふたつ星の運行が始まり、週4回観光列車が訪れることになった。			
駅前広場では朝一の開催など広場を活用した活動も行われている。			
④ 自己評価		 	
地元での取り組みがきっかけとなり行政が駅周辺に関する計画の策定・整備が行われた。これにより朝市などの定期的なイベントが開催されるようになり、更に地域住民おもてなしが観光列車の運行本数の増加の後押しとなった。整備による波及効果が生れた。		観光列車おもてなしの様子 駅前広場でのイベント	
⑤ 今後の対応			
観光列車の一時的な停車の滞在だけでなく、肥前浜駅から肥前浜宿、祐徳稲荷神社までの市内全域に長時間滞在してもらえるような、さらなる取り組みが必要である。 イベント開催時だけでなく日常的に人が集まりたくなるような環境整備を推進していく。 また、肥前浜宿での伝統的な建物を活用した新たな取り組みが生れることにより、更なる相乗効果が期待できるような整備を行う。			

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
取り組み	A 重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

●選定の経緯

地元や有識者の方々から肥前浜宿の町並みを保存して残していく必要があるのではないかという意見が挙がり、鹿島市として本格的な調査（伝統的建造物群保存対策調査）を行うことになった。その調査結果により学術的な価値が明らかとなり、平成18年に浜庄津町浜金屋町、浜中町八本木宿の2地区が選定された。

●修理・修景実績

H31～R5の5年間で27件の修理・修景がなされ歴まち計画策定後も保存活用に向けた取り組みが積極的に行われている。

修理・修景実績
H31年度(5件)、R2年度(3件)、R3年度(8件)修景1件、R4年度(6件)、R5年度(4件) **計 27件**

●活用の動き

修理された物件は飲食店や移住体験施設、宿泊施設などに活用され、観光の促進、鹿島への移住促進に寄与している。

●地元団体の取り組み

伝建選定の取り組みについて地元で声を挙げた方々を中心に「NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会」が結成され、現在は肥前浜駅での観光案内業務や肥前浜宿の町並みガイドなど肥前浜宿の町並み保存活動や浜川の景観のために持続可能な地域社会の実現に貢献している。

酒蔵や街並み活かした鹿島の歴史・文化の情報発信として、「酒蔵ツーリズム®」が企画され経済効果も生まれている。

酒蔵ツーリズムの様子

アジア都市景観賞受賞

② 自己評価

伝建地では保存修理事業と合わせて佐賀大学と共同で行う課題解決に向けた取り組みや地元団体が街並みを活かして行う酒蔵ツーリズムの開催などが街並みの保存と共に地域活性化に繋がっている。こうした産官学で一体となって取り組んできたことが評価され、アジア都市景観賞を受賞することができた。

外部有識者名	久留米工業大学 建築・設備工学科 大森 洋子
外部評価実施日	令和5年12月28日

③ 有識者コメント

専門家の指導のもと丁寧な伝統家屋の復原修理により、往時の魅力的な町並み景観が蘇り、ここでしか見られない空間が観光資源にもなっている。

空き家を修理して飲食店や宿泊施設に活用したり、酒蔵がある町並みを活かした「酒蔵ツーリズム」などのイベントを開催するなど、修理事業は地域活性化に貢献している。

ここでの伝統家屋を活かしたまちづくりが周辺にも波及することが望まれる。

④ 今後の対応

今後も伝統的建造物の保存修理を行いながら、重伝建地区外の歴史的建造物の保存と活用に取り組む。地域の歴史が存続し続けられるよう、観光客を呼び込む一方で、地域全体としてのまちづくりに取り組むことで、地域の活性化に繋げていく。

また、空家実態調査結果を空家の活用推進に反映させ、今後も空き家バンク制度や街なみ環境整備事業と連携を図りながら事業を進めていく。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
取り組み	B 祐徳門前地区街なみ環境整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

●背景
祐徳稲荷神社参道の「まちづくり」を市民・行政・支援団体が共同で行うために「景観」という総合的な環境指標を柱としながら将来へ向けての取り組みとして祐徳稲荷神社門前参道景観整備方針が定められ本事業が行われている。

●街なみ環境整備事業
歴史的風致の範囲である祐徳門前町の参道あるいは地区全体としての個性と統一感のある町並み景観形成を図るため、建築物の修景に対する補助や参道の美装化、防犯灯の設置等を行う。

●建造物の修景事業
R3年度 角屋・道路美装化測量・設計業務
R4年度 さくら屋
R5年度 大祐



修景前



修景後



整備イメージ

② 自己評価
無電柱化事業や修景などを実施し、景観整備を進めることで周辺との関連性を踏まえた面的視野での環境整備を行うことにより奥行きのある街なみ空間づくりに繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響や令和2年7月豪雨による被災等のため、計画に遅れが生じているが、今後も協議会と連携を図りながら事業推進を行う。

外部有識者名	久留米工業大学 建築・設備工学科 大森 洋子
外部評価実施日	令和5年12月28日

③ 有識者コメント
参道のアーケードが老朽化し景観を阻害しているのでアーケードを瓦葺きの庇に変える修景事業が進められているが、新型コロナウイルスによる観光客の減少により修景希望の店舗が少なく、まだ一部でしかない。修景された店舗は参道景観の向上に寄与しており、他の店舗も修景されて、門前町としての景観が整うことが望まれる。無電柱化により参道の建物が目立つようになってきているので、今後伝統家屋の修理が進むことでかつての賑わっていた参道景観が蘇ると考えられる。景観を整備することにより参道を訪れる観光客が増え活性化につながることを地元協議会に説明し理解と協力を得て事業が進むことが望まれる。

④ 今後の対応
新型コロナウイルス感染症の影響などの観光客の低下により設備投資への動きが消極的となり、修景を行う事業者が少なくなっている、今後は祐徳地区にアンケートを行い、今後の状況について把握を行いながら、地元協議会と話し合いをしながら事業を進めていく。イメージ図通りの状況になるには少なくとも20件程度が完了しないといけないため、年数件は修景を実施していきたい。
道路美装化工事は公共下水道事業も合わせ実施されるため外的要因もあり事業は今後長期になる可能性がある。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	1 肥前浜宿に息づく人々の営みにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存活用 II 歴史や伝統を反映した人々の活動 III 歴史的建造物を取り巻く環境 IV 歴史文化の認知		

① 歴史的風致の概要

本市には2つの重要伝統的建造物群保存地区があり、1つは、浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区、もう1つは、浜庄津町浜金屋町伝統的建造物群保存地区である。浜中町八本木宿は白壁土蔵造の町家などが建ち並び、醸造業が営まれている。一方、浜庄津町浜金屋町は草葺屋根町家が建ち並び、漁業を中心とした生活が営まれている。これらの町並みを舞台として、毎年7月13日から15日に浜祇園祭、1月19日にはふな市が行われるなど、市民の生活の中に地域の伝統が息づいている。

② 維持向上の経緯と成果

●選定の経緯

地元や有識者の方々から肥前浜宿の町並みを保存して残していく必要があるのではないかという意見が挙がり、鹿島市として本格的な調査（伝統的建造物群保存対策調査）を行うことになった。

その調査結果により学術的な価値が明らかとなり、平成18年に浜庄津町浜金屋町、浜中町八本木宿の2地区が選定された。

●修理・修景実績

H31～R5の5年間で27件の修理・修景がなされ歴まち計画策定後も保存活用に向けた取組みが積極的に行われている

修理・修景実績
H31年度(5件)、R2年度(3件)、R3年度(8件)修景（1件）、R4年度(6件)、R5年度(4件) **計 27件**

●活用の動き

修理された物件の一部は飲食店や移住体験施設、宿泊施設などに活用され、観光の促進、鹿島への移住促進に寄与している。

●地元団体の取組み

伝建選定の取組みについて地元で声を挙げた人を中心に「NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会」が結成され、現在は肥前浜駅での観光案内業務や肥前浜宿の町並みガイドなど肥前浜宿の町並み保存活動や浜川の景観のために持続可能な地域社会の実現に貢献している。

白壁土蔵の町家と酒蔵の醸造町

浜中町八本木宿地区

浜庄津町浜金屋町地区

③ 自己評価

修理事業において継続的に伝統的建造物の適切な修理がなされ保存地区の街並みの保存が促進された。また少しずつ店舗がオープンするなど活用の促進に繋がっている。

地元団体の取組みとして街並みガイドや酒蔵を活かしたイベント開催を行い、これらの取組みが歴史的風致の維持に繋がっている。

④ 今後の対応

街並みの整備がされ景観が良くなったことで肥前浜宿に訪れる人や観光列車の一時的な停車により、伝建地区まで足を延ばし街並みを見学する人も増加している。一時的な滞在だけでなく、肥前浜駅から肥前浜宿、祐徳稲荷神社など周遊して長時間滞在してもらえるような、さらなる取組みが必要である。

イベント開催時だけでなく日常的に人が集まりたくなるような環境整備を推進していく。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	2祐徳稲荷神社参拝と地域の営みにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存活用 II 歴史や伝統を反映した人々の活動 III 歴史的建造物を取り巻く環境 IV 歴史文化の認知		

① 歴史的風致の概要

本市には江戸時代に創建した祐徳稲荷神社が存在する。鹿島鍋島藩の信仰が篤かった祐徳稲荷神社は、広く住民に開かれて以来、多くの参拝者が訪れており、現在も市内外から年間300万人を超える参拝者を集めている。祐徳稲荷神社の前に形成された祐徳門前町と肥前浜宿は参道で結ばれており、祐徳稲荷神社、祐徳門前町、肥前浜宿の傍には、浜川が流れており、流域に生活する人々は、古くから浜川の水をまちなかへ引き入れ、その水を生活用水として利用する生活を送ってきた。現在においても、これらの流域の人々は定期的に浜川の清掃活動を行うなど、浜川を大切にしながら、浜川とともに生活を送っている。

② 維持向上の経緯と成果

●背景
祐徳稲荷神社参道の「まちづくり」を市民・行政・支援団体が共同で行うために「景観」という総合的な環境指標を柱としながら将来へ向けての取組みとして祐徳稲荷神社門前参道景観整備方針が定められ事業が行われている。

●街なみ環境整備事業
歴史的風致の範囲である祐徳門前町の参道あるいは地区全体としての個性と統一感のある町並み景観形成を図るため、建築物の修景に対する補助や参道の美装化、防犯灯の設置等を行う。

●建造物の修景事業
R3年度 角屋・道路美装化測量・設計業務
R4年度 さくら屋
R5年度 大祐

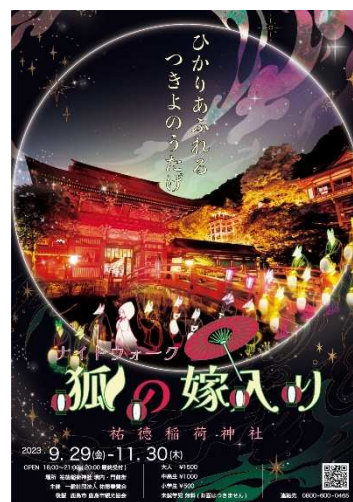
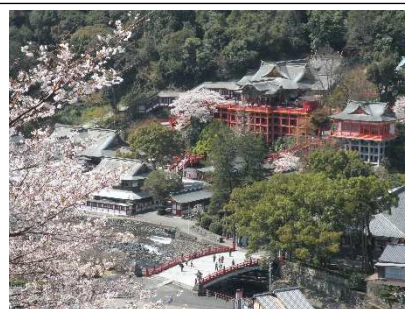
●祐徳稲荷神社でのイベント
新型コロナウイルスも落ち着きこれまで行われていたイベントも復活し、伝統的な行事から最近では夜間のライトアップなど、これまでの歴史だけでなく、新たな試みにより観光の起爆剤として様々な取り組みが行われている。

③ 自己評価

無電柱化事業や修景などを実施し、景観整備を進めることで周辺との関連性を踏まえた面的視野での環境整備を行うことにより奥行きのある街なみ空間づくりに繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響や令和2年7月豪雨による被災等のため、計画に遅れが生じているが、今後も協議会と連携を図りながら事業推進を行う。

④ 今後の対応

祐徳稲荷神社の前に形成された祐徳門前町と肥前浜宿は参道で結ばれておりこの2つの地区を繋ぐ取り組みの検討が必要である。
こういった歴史的な背景についてもアピールを行い祐徳稲荷神社に訪れた人が肥前浜宿など鹿島市内を周遊してもらえるような情報発信を進めていく。



市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	3鹿島城址と琴路神社の祭りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存活用 II 歴史や伝統を反映した人々の活動 III 歴史的建造物を取り巻く環境 IV 歴史文化の認知		

① 歴史的風致の概要

本市は江戸時代、鹿島鍋島藩領であった。文化4年（1807）、高津原に鹿島城が築かれ、現在の新町をはじめ、周囲に城下町が形成された。明治7年（1874）、佐賀の乱に呼応した旧藩士らによって、鹿島城に火が放たれ、多くの建造物が焼失したが、遺った赤門や大手門、武家屋敷棟門、城の遺構が歴史を今に伝えている。その後、鹿島城址の一部は高等学校となり、かつての庭園部分は旭ヶ岡公園として整備された。ここでは、藩政期に始まった花見行事が現在も継承されており、多くの市民に親しまれている。城址の南側を流れる中川の対岸には琴路神社があり、例大祭には鹿島城址周辺から琴路神社までの市街地を神輿や獅子舞が華々しく巡行する。

② 維持向上の経緯と成果

鹿島城は文化4年（1807）に北鹿島の常広城から移転してできたもので、本町は常広城の城下町として、新町は鹿島城の城下町として旧多良海道沿いに造られ、繁栄した場所である。かつての城下町の範囲では、間口が狭く、奥行きのある古い町割が残り、所々に幕末から明治、大正時代の古い家屋が残る。

●赤門・大手門の保存
赤門、大手門は佐賀県重要文化財に指定されており、県内に残る数少ない城郭遺構である。
大手門については耐震診断を実施し、耐震補強が必要と診断され、保存修理方法について検討を行っている。
赤門の続塀についてはR元年の台風被害及び経年劣化により毀損が著しいためR2.3年に修理を実施している。

●歴史ガイドブック作成事業
「鹿島の歴史を歩こう」を作成しガイドブックの作成により、市内各地の歴史や文化を分かりやすく伝え、市民や来訪者の歴史的風致に関する興味関心の向上が図られることから、市全域の歴史的風致の維持向上に繋がっている。

●佐賀県遺産への登録
令和3年に鹿島城址に残る松蔭神社が佐賀県遺産に登録され、石垣の修理が行われている。

大手門

歴史ガイドブック

③ 自己評価

鹿島城のあった区域一体には、土塁や堀、稲妻型に折れ曲がった道など、かつての遺構が残っている。城のあった位置には、現在の佐賀県立鹿島高等学校が建っており、そのほか、城跡の遺構をはじめ、現存する旭ヶ岡公園、赤門、大手門などの建造物等が城址を構成している。
そういった歴史をガイドブックの作成により、分かりやすく伝え、まち歩きや市跡巡りなどに活用することで歴史を知り歴史的風致の向上に繋がっている。

④ 今後の対応

鹿島地区に該当するこの範囲は、鹿島市役所や肥前鹿島駅などの公共施設や、商業施設が多く集まり、現在においても本市の中心的な市街地となっており、歴史を活かしたまちづくりに向けて更なる取り組みが必要と考える。
大手門の修理をきっかけにこれからの鹿島城址の在り方について地元の思いをまちづくりにつなげることができればと思う。

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
歴史的風致	4浮立と獅子舞にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存活用 II 歴史や伝統を反映した人々の活動 III 歴史的建造物を取り巻く環境 IV 歴史文化の認知		

① 歴史的風致の概要

本市には民俗芸能が多数存在する。中でも、本県に伝承される民俗芸能の多くを占める浮立と、扁平な獅子面が特徴的な獅子舞は、本市の祭事の特徴づける存在となっている。浮立とは、笛、太鼓、鉦などの楽器を用いた囃子そのもの、またはその囃子に合わせて所作を成す踊りや舞のことである。浮立は、祭の際には神社で奉納され、まちなかを練り歩きながら演じられるものもある。本市には、面浮立、一声立、獅子浮立、鉦浮立の4種類の浮立が伝承されている。獅子舞も浮立と同様、祭の際には神社で奉納され、その後、まちなかを練り歩きながら演じられる。

② 維持向上の経緯と成果

民俗芸能を披露する場ができることで、民俗芸能の技術伝承につながるとともに、市内外からの見物客への認知向上にもつながることから、後継者育成にも効果が期待される。これにより、市内に伝承される「浮立や獅子舞」をはじめとした民俗芸能の継承が図られることから、浮立と獅子舞にみる歴史的風致の維持向上に寄与する。

【公開支援事業】

市全域に分布する浮立や獅子舞をはじめとした伝承芸能を披露する場として、祐徳稲荷神社境内において、「伝承芸能フェスティバル」を開催し伝承芸能の魅力を発信した。「伝承芸能フェスティバル」では、古くから伝わる民俗芸能だけでなく、太鼓や舞踊など最近の芸能の披露も行われる。

また、ここで披露される民俗芸能が元の形を保つよう、必要に応じ学識経験者の指導を受ける。

【民俗芸能の道具等の修理・新調支援事業】

助成事業、補助事業を活用し、県重要無形民俗文化財「音成の面浮立」の用具や袴、祭用袴など用具新調の支援を行った。

【民俗芸能団体の活動支援事業】

市重要文化財である浅浦の面浮立の保存会に対し、活動費の補助を行い、支援や助言を行った。

③ 自己評価

民俗芸能の道具の修理や新調、民俗芸能団体への活動支援を行い、かしま伝承芸能フェスティバルの開催など、歴史や伝統の継承に向けて活動を行った。

コロナによりイベントができない期間があったがイベント開催も戻りつつあり、イベントなどによる周知や民俗芸の継承が引き続き必要である。

④ 今後の対応

民俗芸能団体や道具修理などの活動へ支援を行い、活動の継承を支えていく。

また、「かしま伝承芸能フェスティバル」や「佐賀県伝承芸能祭」にて歴史や伝統を反映した人々の活動について情報発信を行い、後継者不足という課題解決に向けた事業を行う。



浅浦の面浮立



伝承芸能フェスティバル



市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
① 庁内組織の体制・変化 庁内組織である「鹿島市歴史まちづくり推進会議」を開催し、行政内部における計画の進行管理及び連絡調整を行った。また、「鹿島市歴史まちづくり協議会（法定協議会）」を開催し、各事業の進捗管理に係る意見聴取を行った。 事務局は都市計画課が務め、特に文化財を担当する生涯学習課と、産業を担当する農林水産課、商工観光課との緊密な連携を図りながら計画を推進している。 <pre> graph TD subgraph 庁内組織 A["庁内策定会議 (部課長会、担当者会) 【役割】計画案の検討 【構成】関係部課長、関係課担当者 (建設環境部都市建設課、 教育委員会生涯学習課、 産業部農林水産課)"] B["事務局 【役割】計画案の検討・作成 【構成】都市建設課(都市計画係)"] A -- 報告 --> B B -- 提案 --> A end A -- 提案 --> C subgraph 法定協議会 C["法定協議会 鹿島市歴史まちづくり協議会 【役割】計画の作成に関する協議 【構成】学識者、市民団体 等"] end C -- 意見 --> B </pre> 歴史まちづくりの体制図			
② 庁内の意見・評価 ・歴史的風致維持向上計画の推進にあたり、事業担当部署間において、密に連絡・調整を図り、連携を強化しながら、歴史まちづくりという視点を踏まえた取り組みを、より一層実施していく必要がある。 ・伝建地区では修理を行ってきたことにより町並みがよくなり肥前浜宿にも観光客が増えてきている。 ・県内の中でも多くの観光客が訪れる祐徳稲荷神社があり、生涯学習課では「歴史さんぽガイド」を作成し歴史を学びながら散策できるような取り組みも行っている。 ・鹿島市内には豊富な歴史的な資源があるため、これらを上手く活かした市内の一体的な取り組みを今後庁内で検討していくことが必要である。 ・後継者不足や新型コロナウイルスによる観光客の減少など課題もあるが鹿島市にある資源の魅力を発信を行い、歴史まちづくりの価値を再度認識してもらう必要がある。また、地元地域が主体となって取り組みを推進する仕組みの構築も必要である。 ・歴史的に価値のあるものについて修理を行い保存して残すだけでなく、修理した後も継続して活用される取組みについても今後検討していく必要がある。			

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
① 住民意見 ●肥前浜宿街なみ環境事業のエリア拡大に伴うB/Cの市民アンケート調査より(R4年度実施) ・町並みが復原されつつあり、イベント等が盛り上がっていてよい傾向だと思います。 ・町並みについては次の世代に残っていけばいいと思います。観光やイベントでもっと人々が来てくれるように頑張ってください。 ・鹿島の町並みとして鹿島駅-浜宿-七浦干潟-祐徳稲荷神社等へのルートを組み市民の協力を得て皆が参加でき、やりがいのある街おこしを今後も企画してください。 ・鹿島市の過疎化を止めるためには官民一体となって、浜の酒蔵通りを盛り立てていくしかないと思います。魅力あるまちづくり、浜宿が旅の目的地になってほしいと思います。 ・浜宿を中心としながらも一体的（面的）な整備を考えることが未来へ向けたまちづくりに繋がるのではないのでしょうか。 ・以前に比べて整備後は人の通りが増えたと思う。町全体が整備され、ますます人出が増えることを期待します。 ・町並みを保存していくのは労力と費用がかかりますが、市民全体が協力してどうにか守っていききたいものです。 ・酒だけでなく他にもいろいろな店がないと賑わいがないと思います。食べ物や小物のお店があれば、もっと若い人が集まると思います。 ・歴史的に価値のあるものを保存し、伝承していくことは必要だと思うが、そのために不満が募る人もいるのでは。その辺りをよく考えて事業を行ってください。 ●祐徳門前町まちづくり協議会での意見(街なみ環境整備事業についてのアンケート調査) 【今後修景事業に取り組みについてのアンケート】 ・取り組みたい（0）・取り組みたいが懸念点がある（8）・取り組む予定がない（13） 【懸念点について】 ・後継者がいない。 ・資金の捻出が難しい。（費用がわからない） ・商店街の将来性に不安がある。 ・コロナにより疲弊し修景したいができない状況となっている。 ・マイナスイメージの払拭・意識低下の解決に向けて改めて協議会設立の趣旨などの勉強会をしてみたらどうか。			
② 協議会におけるコメント （委員）中間評価シートは重点区域内の事業以外についても評価対象としているのか。 （事務局）その通り。重点区域に重きをおいているものの、歴まち計画自体は市内全域を対象とした計画であるため、計画に対する5年間の取り組みを評価している。 （委員）歴史的風致形成建造物の指定が課題だと思うが、この先の見通しはどうなっているか。 （事務局）候補物件に市有施設はなく全て民間又は神社仏閣所有の建物である。協議会等で周知はしているが、街環の間接事業の中で改修するにしても自己負担が発生するため指定に至っていない。具体的な話が挙がらないため、市でも制度設計ができていない状況。 （委員）コロナの影響で取り組みが厳しいものもたくさんあったと思うが、その中でも頑張られているのではないかと思う。特に肥前浜宿の方は伝統的建造物の修理も進んだり宿泊施設が新たにできたりして観光客も増えている。この動きが祐徳門前や鹿島市内にも広がればと思う。			

市町村名	鹿島市	評価対象年度	H31～R5年
①全体の課題 （1）歴史的建造物等の保存・活用に関する課題 ・歴史的建造物の保存と活用に関する対策として重伝建地区内では継続して修理が行われているが、重伝建地区外、祐徳門前商店街、鹿島城址での保存活用が進んでいない。 ・修理を行った後の空き家活用や移住に繋げる取組みなど、今後の利活用について検討が必要である。 ・歴史的建造物所有者の今後の活用方針などについて確認、把握はできていない。少子高齢化による世代交代についても懸念があり歴史的な風致が維持されない恐れがある。 ・防災対策事業について地元と協力した防災訓練などが新型コロナウイルス感染症拡大の影響などによってできていない。 （2）歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興に関する課題 ・各拠点の賑わいを創出するために肥前浜駅、肥前浜宿、祐徳稲荷神社、祐徳門前商店街など各々で取り組みは実施しているものの、市内の回遊性を向上させるための取り組みや「面」としてのネットワーク化した観光周遊ルートの形成には至っていない。 ・歴まち計画に定める重点区域は肥前浜宿と祐徳稲荷神社周辺を核としており、その二つの地区を繋げる取り組みが今後必要であると感じているが具体的な検討がされていない。 ・浜川の景観整備状況として地元からは治水対策を優先して行ってほしいという要望があり、浜川を活用した周遊検討と合わせて検討が必要。 （3）庁内体制に関する課題 ・庁内の各課が個別に行う事業だけではなく、課同士が連携をとった事業をしていく必要がある。 ・肥前浜宿、祐徳門前地区などそれぞれの地区に関する協議を行う場はあるが、鹿島市の全体的な景観については協議をする場がない。			
②今後の対応 （1）歴史的建造物等の保存・活用に関する課題 ・歴史的風致形成建造物への指定物件、佐賀県遺産への登録などを促し、歴史的建造物の保存・維持管理事業を実施していく必要がある。 また住民説明会等での事業について周知や勉強会を実施する。 ・伝建保存活用計画を策定するなど、活用について検討を行う。 ・住民説明会等での事業について周知や勉強会を実施するなかで、活用方針や世代交代等の情報収集を行う。 ・地域防災訓練の再開や訓練手段を検討する。 （2）歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興に関する課題 ・道路などの美装化を行い、景観の連続性を強化することで周遊性を高める検討を行う。 ・浜川の治水対策に関する部署とも連携をとり、浜川整備の方針を検討する。 ・鹿島市を訪れた人が長時間滞在してもらえるように魅力的でわかりやすい情報発信を行う。 （3）庁内体制に関する課題 ・法定協議会の参加や歴史的景観審議会など各課が参加してそれぞれがどのような事業を行っているか、目的意識や情報の共有がなされている。これらの取組みをまちづくり活動や周知活動に繋がれるように、それぞれの課の事業の意義を理解し連携して歴史的風致の向上に努める。 ・景観計画策定に合わせて鹿島市全体の景観について検討を行う。			